J

DATA PROJECTOR
XJ-S36/XJ-S46
データプロジェクター

USB拡張機能ガイド

- 必ず別冊の取扱説明書（基本編）の注意事項をお読みになってからご使用ください。また、本機の設置方法やランプ交換方法に関しても、取扱説明書（基本編）を参照してください。
- 本書はお読みになった後も大切に保管してください。

目次

この取扱説明書について

本書は、XJ-S36/XJ-S46（本機）のUSB端子に次の各機器を接続したときの機能と操作について説明しています。

- USBメモリーまたはUSBカードリーダー
- マルチプロジェクションカメラ（YC-400/YC-430）
- 関数電卓（fx-9860Gシリーズ）

重要

本機のUSB端子に無線アダプター（YW-2）を接続したときの機能と操作については、本書の6ページ、および別売品のYW-2L※に付属のCD-ROMに収録されている取扱説明書をご覧ください。

※「YW-2L」は、無線アダプターYW-2と、パソコン用無線LANソフトウェアWireless Connection 2がセットになったパッケージです。

本書中の表現について

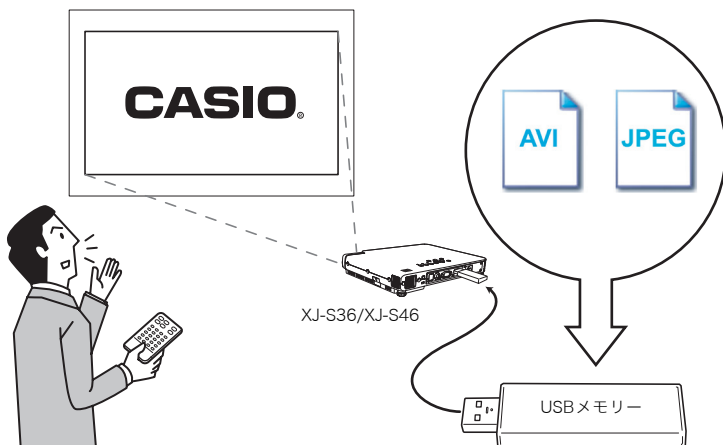
本書中では、本機の操作とパソコンの操作を同時並行して行う場面が数多くあります。このような場合には、操作する対象が本機かパソコンか、操作の結果がどこに表示されるか（XJ-S36/XJ-S46から投映している画面上に表示されるか、あるいはパソコンのディスプレイ上に表示されるか）を、区別することが必要です。本書は区別のために、次のような表現を使っています。

- 本機がスクリーンに投射する四角い範囲全体のことを、本書中では「投映画面」と呼びます。
  本機の操作を行う際は、投映画面に表示されるさまざまなメッセージやメニューを使います。
- パソコンに直接接続された表示デバイス（ノートパソコンのLCDを含む）のことを、本書中では「パソコンのディスプレイ」と呼びます。

USB拡張機能でできること

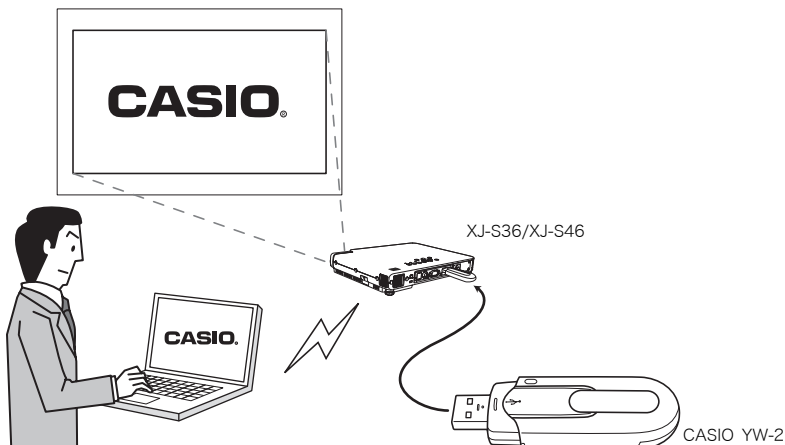
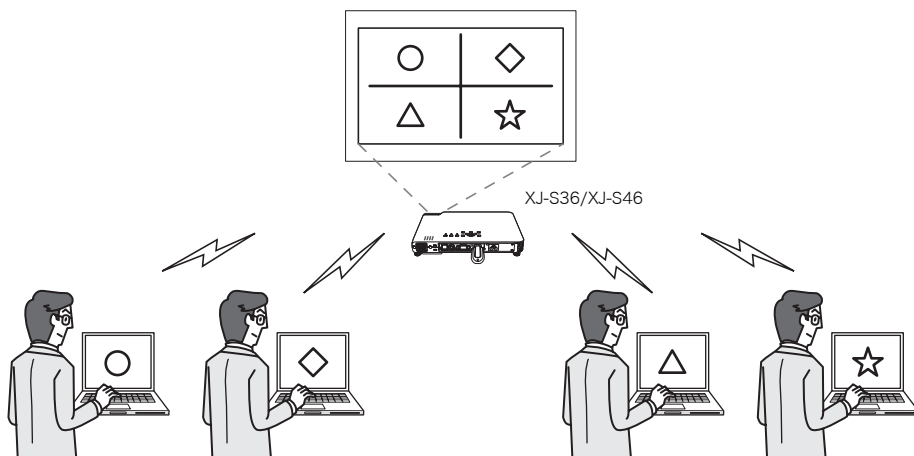
本機のUSB端子に次の外部USB機器を接続して、USB機器を入力ソースとする投映が可能です。

市販のUSBメモリーまたはUSBカードリーダー

USBメモリーやメモリーカード内に保存されている画像（jpegファイルなど）や動画（aviファイルなど）を表示することができます。

詳しくは次の各項目を参照してください。

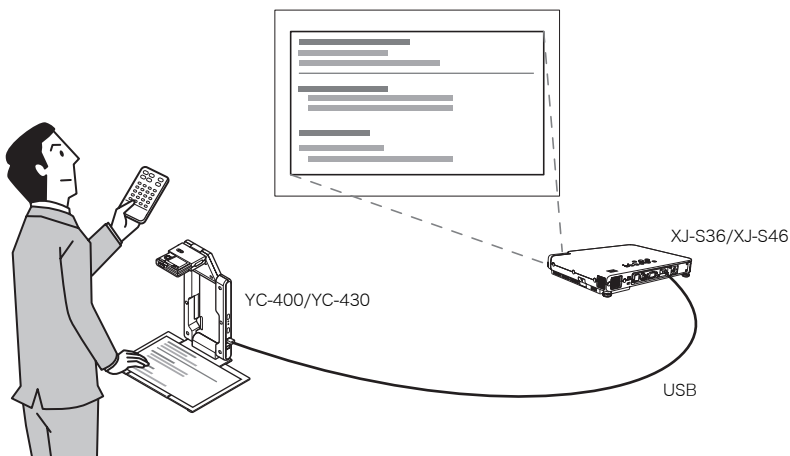
これについて知りたいときは：	ここを参照：
本機に接続可能なUSBメモリー	「本機と接続が可能なUSBメモリーについて」（12ページ）
本機で再生することが可能な画像ファイルや動画ファイルのフォーマット	「再生が可能なデータの種類について」（12ページ）
パソコンを使ってUSBメモリー／メモリーカードに画像のデータを保存する操作	「USBメモリー／メモリーカードに画像ファイルを保存する（プレゼンテーションの準備）」（13ページ）
USBメモリー内に保存されている画像や動画のデータを投映する操作	「プレゼンテーションを実行する（ビューアー機能を使う）」（24ページ）

無線アダプター（弊社製YW-2）

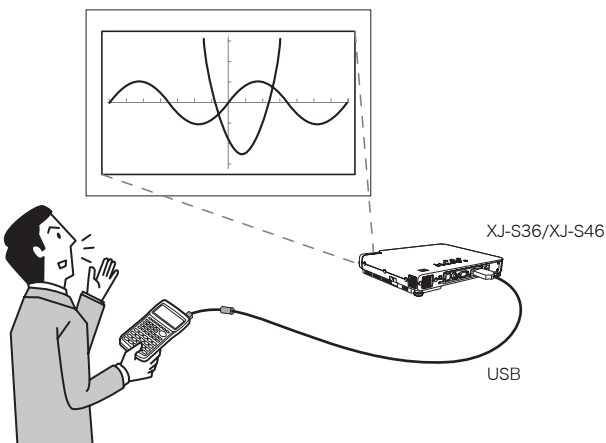
無線LAN機能を備えたパソコンを、本機と無線LANで接続することで、パソコンのディスプレイ内容を投映することができます。

本機には、4台のパソコンを同時に無線LANで接続することもできます。4台のうちどのパソコンのディスプレイ内容を投映するかは、付属のリモコンを使って選びます。

重要

- 上記の操作を行うには、別売品のYW-2Lが必要です。YW-2Lのパッケージには、本機専用の無線アダプターYW-2と、本機とパソコンを無線LAN接続するためのパソコン用ソフトウェアWireless Connection 2が含まれています。
- 本機とパソコンを無線LAN接続する操作について詳しくは、YW-2Lに付属のCD-ROMに収録されている取扱説明書をご覧ください。

マルチプロジェクションカメラ(弊社製YC-400/YC-430)

マルチプロジェクションカメラを本機のUSB端子に接続すると、マルチプロジェクションカメラの書画台に置いた書類を投映することができます。

詳しくは「マルチプロジェクションカメラを利用したプレゼンテーションを行う（書類を投映する)」(44ページ)を参照してください。

関数電卓(弊社製fx-9860Gシリーズ)

fx-9860Gシリーズの関数電卓を本機とUSB接続することで、関数電卓の画面を本機から投映することができます。

詳しくは「関数電卓の画面を投映する」(55ページ)を参照してください。

本機にUSB機器を接続したときの動作について

本機にUSB機器を接続したときの動作は、本機の「プラグアンドプレイ」の設定状態によって異なります。初期設定では、プラグアンドプレイは「オン」に設定されています。プラグアンドプレイの設定については、取扱説明書(応用編)の「設定メニュー項目の内容詳細」を参照してください。

電源オン時の動作

本機のUSB端子に何も接続していないとき、本機は電源が入るとRGB端子→VIDEO端子の順に入力信号を探し、見つかった入力ソースを自動的に選択して、投映を開始します。一方、本機のUSB端子にUSB機器が接続されている状態で本機の電源が入ると、本機は次のように動作します。

プラグアンドプレイが「オン」のとき:

- 本機に対応したUSBメモリー(またはメモリーカードが挿入されたUSBカードリーダー)が接続されていた場合は、自動的に本機の「ビューアー」(24ページ参照)が起動し、ビューアーの画面が投映されます。
- 本機専用の無線アダプターYW-2が接続されていた場合は、自動的に本機の「ワイヤレス」が起動し、ワイヤレスの画面が投映されます。
- マルチプロジェクションカメラ(YC-400/YC-430)が接続されていた場合は、電源が入った時点では本機はマルチプロジェクションカメラを認識しません。RGB端子→VIDEO端子の順に入力信号を探し、入力信号が見つかった入力ソースを自動的に選択して、投映を開始します。

プラグアンドプレイが「オフ」のとき:

RGB端子→VIDEO端子の順に入力信号を探します。入力信号が見つかると、本機はその入力ソースを自動的に選択して、投映を開始します。このとき、本機のUSB端子に接続されていたUSB機器に応じて、バックグラウンドで「ビューアー」または「ワイヤレス」が起動します。

電源オンの状態でUSB機器を接続したときの動作

プラグアンドプレイの設定状態に応じて、次のように動作します。

プラグアンドプレイが「オン」のとき:

- 本機に対応したUSBメモリーを接続するか、本機に接続されたUSBカードリーダーにメモリーカードを挿入すると、自動的に本機の「ビューアー」(24ページ参照)が起動し、ビューアーの画面が投映されます。
- 本機専用の無線アダプターYW-2を接続すると、自動的に本機の「ワイヤレス」が起動し、ワイヤレスの画面が投映されます。
- マルチプロジェクションカメラ(YC-400/YC-430)を接続した後でマルチプロジェクションカメラの電源を入れると、自動的に本機の「YCカメラ」(44ページ参照)が起動し、YCカメラの画面が投映されます。

プラグアンドプレイが「オフ」のとき:

投映画面は変化しませが、USB端子に接続された機器に応じて、バックグラウンドで「ビューアー」、「ワイヤレス」、または「YCカメラ」が起動します。

本機にUSB機器を接続した状態で入力ソースを選択するには

本機のリモコンの[INPUT]キーを押します。[INPUT]キーを押すたびに、本機はRGB端子→VIDEO端子→USB端子の順に入力信号の検索を行い、入力信号が見つかると、本機はその入力ソースを選択して投映を行います。

ソフトウェアのインストール

次の操作を行うには、付属ソフトウェアをパソコンにインストールすることが必要です。

この操作を行うには：	このソフトウェアをインストールする：
PowerPointファイルやPDF、Webページなどを本機から投映可能な画像ファイルに変換し、USBメモリー／メモリーカードに保存する	EZ-Converter PRO
● PowerPointファイルを画像ファイルに変換し、その画像ファイルを投映順に整理して、USBメモリー／メモリーカードに保存する ● 画像ファイルを、黒板への投映に適した階調に変換する	EZ-Converter 1.1

動作環境

付属ソフトウェアの動作環境は次の通りです。

OS: Microsoft® Windows Vista™/Windows® XP/2000 Professional日本語版

パソコン: 下記の条件を満たす「IBM PC/AT互換機」

- Windows Vista™/Windows® XP/2000 Professionalプリインストールモデル
- PowerPoint 2000、2002、2003、または2007いずれかのインストール（EZ-Converter 1.1使用時）
- CPU：PentiumⅢ以上
- メモリ：256MB以上、あるいはお使いのOSが推奨するメモリ
- ハードディスク：インストール時は40MB以上、また起動時は60MB以上の空きが必要
- ディスプレイ：パソコン本体に接続可能で上記OSに対応しているフルカラーディスプレイ、解像度800×600ドット以上
- 入力機器：キーボードおよびポインティングデバイス（上記OSで使用可能なマウス、または準ずるもの）

※ その他、上記OSが推奨する環境に準拠します。

※ 機器の構成によっては、正常に動作しない場合があります。

※ Windows® NT/Me/98SE/98/95/3.1上、またMacintosh/Mac OS上では動作しません。

※ 他のOSからアップグレードされたWindows Vista™/Windows® XP/2000 Professionalでの動作は保証しません。

※ Windows Vista™の64bit版には対応しておりません。

※ Windows XP Professional x64 Editionには対応しておりません。

ソフトウェアをインストールする

1 **付属のCD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブにセットする。**

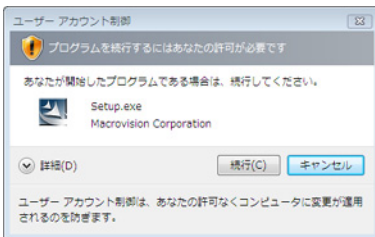
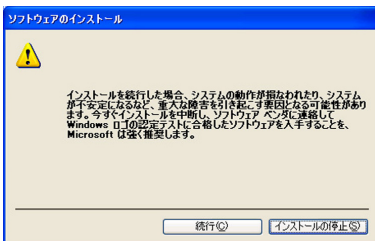
● 次のダイアログが表示されます。

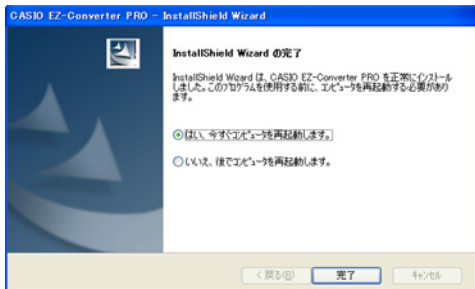
2 **インストールしたいソフトウェアにチェックを付ける。**

3 **[インストール]ボタンをクリックする。**

● インストールが開始されます。

4 **表示されるダイアログで、順次[次へ]をクリックする。**

● Windows Vistaで次のメッセージが表示された場合は、[続行]をクリックしてください。

● Windows XPで次のメッセージが表示された場合は、[続行]をクリックしてください。

● Windows 2000で「デジタル署名が見つかりませんでした」というメッセージが表示された場合は、[はい]をクリックしてください。

● インストールが完了すると、次のダイアログが表示されます。

5 [完了]をクリックする。

USBメモリー／メモリーカードを利用したプレゼンテーションを行う（USBメモリー／メモリーカード上のデータを投映する）

ここでは次の操作について説明します。

- 付属ソフトウェアの「EZ-Converter PRO」や「EZ-Converter 1.1」を使って、USBメモリーまたはメモリーカードにプレゼンテーション用のファイルを保存する操作
- USBメモリーやメモリーカード上に保存されているプレゼンテーション用のファイル（画像や動画）を本機の「ビューアー」を使って再生する操作

重要

- 操作を行う前に、付属のCD-ROMからあらかじめソフトウェアをパソコンにインストールしてください。詳しくは「ソフトウェアのインストール」（9ページ）を参照してください。

本機と接続が可能なUSBメモリーについて

本機はFAT/FAT32フォーマットのUSBメモリーデバイスに対応しており、次のようなUSBメモリーデバイスを接続することが可能です。

- USBメモリー
- USBマスストレージクラス（USB Mass Storage Class）に対応したデジタルカメラ

本機に接続可能なUSBメモリー（動作確認済み製品）について詳しくは、弊社のホームページ（http://casio.jp/support/projector/）をご覧ください。

なお、市販のUSBカードリーダーを本機に接続すると、カードリーダーが対応している各種のメモリーカード上のデータも、USBメモリーと同様に扱うことができます。本機との接続確認済みのUSBカードリーダーについても、弊社ホームページをご覧ください。

再生が可能なデータの種類について

本機の「ビューアー」を使うと、USBメモリー／メモリーカードに保存されている次の形式のデータを再生することができます。

画像ファイル

容量約6MByteまでの、JPEG形式（.jpg、.jpeg、.jpe、プログレッシブ形式を除く）またはBMP形式（.bmp）の画像ファイルの再生をサポートしています。

動画ファイル

次の形式の動画ファイルの再生をサポートしています。

- **CASIOデジタルカメラで撮影した、MPEG-4タイプのavi形式動画ファイル**
  対応機種：弊社のホームページ（http://casio.jp/support/projector/）をご覧ください
  対応撮影モード：高品位モード（640×480、30fps、15MB未満）、
  標準モード（640×480、30fps、15MB未満）、
  長時間モード（320×240、15fps）
  対応音声形式：wav
- **CASIOデジタルカメラで撮影した、Motion JPEGタイプのavi形式動画ファイル**
  対応機種：弊社のホームページ（http://casio.jp/support/projector/）をご覧ください
  対応撮影モード：長時間モード（320×240、15fps）
  対応音声形式：wav

- PC用のソフトウェアで変換して作成したmp4形式動画ファイル
  対応形式：VGA（640×480）サイズ（15MB未満の場合は25fps以下、
  15MB以上の場合は15fps以下を推奨）、
  QVGA（320×240）サイズ（15fps以下を推奨）
  対応音声形式：AAC

USBメモリー／メモリーカードに画像ファイルを保存する（プレゼンテーションの準備）

USBメモリー／メモリーカードを利用してプレゼンテーションを行うには、はじめにこれらのメディアに画像ファイルを保存します。この作業は、付属のソフトウェアを使えば簡単です。
EZ-Converter PROを使うと、パソコン上の既存の書類（PowerPointファイルやPDFなど）を画像ファイルに変換して、USBメモリー／メモリーカードに保存することができます。またEZ-Converter 1.1を使うと、画像ファイルを投映順に並べ替えたり、黒板に投映したときに見やすい画像に加工したりすることが可能です。

EZ-Converter PROを使う

EZ-Converter PROは、パソコン上の各種ファイルをプレゼンテーション用のJPEG画像ファイルに変換するソフトウェアです。変換には、ファイル作成に使ったアプリケーションの印刷機能を利用します。

ご注意

EZ-Converter PROは、下記のアプリケーションでの動作を確認しております。すべてのアプリケーションでの動作を保証するものではありません。

- Word 2000 / 2002 / 2003 / 2007
- Excel 2000 / 2002 / 2003 / 2007
- PowerPoint 2000 / 2002 / 2003 / 2007
- Adobe Reader / Acrobat ver. 6 / 7 / 8
- ワードパッドver. 5 / 6

書類を画像ファイルに変換するには

1 **画像ファイルに変換したい書類を開く。**

2 **アプリケーションのメニューから「印刷」を選択する。**

- 印刷ダイアログが表示されます（下のダイアログは、ワードパッドで書類を開いた場合の例です）。

3 書類を開くのに使用したアプリケーションに応じて、次のいずれかの操作を行う。

- 「プリンタの選択」から「CASIO EZ-Converter PRO」を選ぶ(ワードパッドなどの場合)。
- 「プリンタ名」欄の▼をクリックし、表示されるドロップダウンストから「CASIO EZ-Converter PRO」を選ぶ(Adobe Reader、PowerPoint、Wordなどの場合)。

メモ

手順4〜6の操作は、出力する画像ファイルのサイズと画質の初期設定(サイズ:1024×768、画質:標準)を変更したい場合に行う操作です。初期設定を変更しない場合は、手順7に進んでください。

4 [プロパティ]ボタン(または[詳細設定]ボタン)をクリックする。

- 「CASIO EZ-Converter PROのプロパティ」ダイアログ(または「印刷設定」ダイアログ)が表示されます。(ボタン名やダイアログ名は、アプリケーションによって異なります。)

5 出力する画像ファイルのサイズと画質を指定する。

- サイズを指定するには、「画像サイズ」欄の▼をクリックし、表示されるドロップダウンリストから希望する画像ファイルのサイズを選択します。
- 画質を指定するには、「標準」または「高画質」のどちらかのボタンをクリックします。

6 [OK]ボタンをクリックする。

- 「CASIO EZ-Converter PROのプロパティ」ダイアログが閉じ、印刷ダイアログに戻ります。

7 [OK]ボタンをクリックする。

- 「保存先選択」ダイアログが表示されます。

8 画像ファイルの保存先ドライブをクリックして選択する。

- 画像ファイルを既存のフォルダー内に保存したい場合は、保存先として指定したいフォルダーをクリックして選択します。

9 「フォルダ名」欄に、画像ファイルの保存先フォルダー名を入力する。

- ここで入力した名前のフォルダー内に、ここで入力した名前で、画像ファイルが保存されます。複数のページを出力した場合、保存される画像ファイル名は、「入力名 - XXX」(XXXの部分は3桁の通し番号)となります。

10 [OK]ボタンをクリックする。

- 画像ファイルへの変換が開始されます。「JPEG画像の出力が完了しました」と表示されるまでお待ちください。

ご注意

手順10の操作を行ったときに、「指定されたフォルダ名は既に存在します。別の名前を指定してください。」というダイアログが表示されることがあります。
このような場合は[OK]ボタンをクリックして「保存先選択」ダイアログに戻り、「フォルダ名」欄に入力されている名前を他の名前に変更してください。

ヒント:画像ファイルへの変換に適した書類について

プロジェクターの投映画面は縦横比3:4の横長なので、画像ファイルに変換する書類も、この比率に近い横長のページ設定で作成することをお勧めします。横長の書類から変換した画像ファイルの方が、プロジェクターで投映した際に画像の解像度が劣化しにくくなります。

各種アプリケーションの書類を画像ファイルに変換する際の注意点

Microsoft PowerPoint

印刷ダイアログで「用紙サイズに合わせて印刷する」チェックボックスに必ずチェックを付けてください。

Microsoft Word

- 初期設定変更の有無にかかわらず、一度「CASIO EZ-Converter PROのプロパティ」ダイアログを開き、[OK]ボタンをクリックしてください。これを実行しないと、出力画像が適切に変倍されません。
- 書類によっては、画像ファイルへの出力に非常に時間がかかる場合があります。この場合は、印刷ダイアログで「バックグラウンドで印刷する」チェックボックスのチェックを外してください。

Microsoft Excel

印刷プレビュー画面を表示し、画像ファイルに出力したい範囲を調整したうえで、画像ファイルへの出力を行ってください。

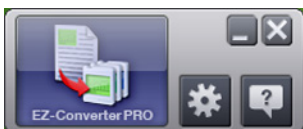
EZ-Converter PROランチャーを使う

EZ-Converter PROランチャーを使うと、ドラッグ＆ドロップ操作で書類を画像ファイルに変換したり、ヘルプを参照することができます。

EZ-Converter PROランチャーを利用するには

1 **スタートメニューから[すべてのプログラム] - [CASIO] - [EZ-Converter PRO]を選択する。**

2 **「ご注意」メッセージが表示されるので、内容を確認した上で [OK]ボタンをクリックする。**

- EZ-Converter PROランチャーが表示されます。

3 **希望する操作を行う。**

書類を画像ファイルに変換するには：

1. 画像ファイルに変換したい書類を にドラッグ＆ドロップする。
   - 「ファイルをドラッグ＆ドロップする際のご注意」ダイアログが表示されるので、ダイアログの内容をお読みください。
2. 手順1の書類の作成に使ったアプリケーションがすでに起動している場合は、そのアプリケーションをいったん終了する。
   - 必ずこの操作を行ってください。アプリケーションを終了せずに操作を続けると、現在そのアプリケーションに設定されているプリンターで印刷されてしまいます。
3. 「ファイルをドラッグ＆ドロップする際のご注意」ダイアログに戻り、[OK]ボタンをクリックする。
4. 「書類を画像ファイルに変換するには」(13ページ)の手順7以降の操作を行う。

ご注意

- ダブルクリックしたときに自動的に開かない書類(関連付けられているアプリケーションがない書類)は、 にドラッグ＆ドロップしても画像ファイルに変換することはできません。また、書類に関連付けられているアプリケーションに印刷機能がない場合や、印刷することができない書類の場合も、画像ファイルに変換することはできません。
- 一部のアプリケーションに関連付けられた書類を にドラッグ＆ドロップすると、すぐには保存ダイアログが表示されず、関連付けられているアプリケーションによって書類が開かれる場合があります。このような場合は、そのアプリケーションで印刷の操作を行ってください。

設定画面(CASIO EZ-Converter PROのプロパティ)を表示するには：

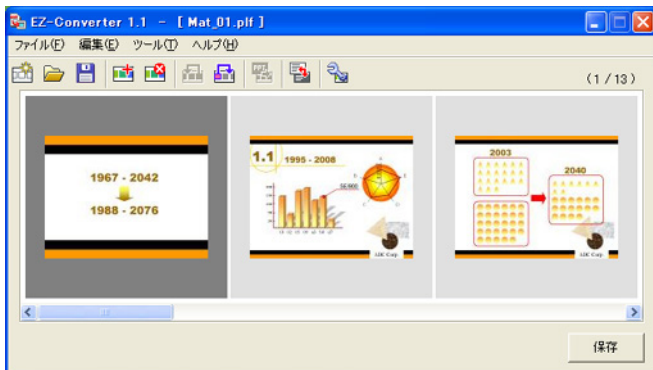
をクリックします。

ヘルプを表示するには：

をクリックします。

4 **EZ-Converter PROランチャーを終了するには、[×]をクリックする。**

EZ-Converter 1.1を使う

EZ-Converter 1.1は、パソコン上の画像ファイルを「プレゼンテーションデータ」に登録して、プレゼンテーション時に投映する順に並べ替えたり、投映する際の画面切り替えの効果などをあらかじめ設定したりすることができるソフトウェアです。PowerPointファイルをプレゼンテーションデータに変換することも可能です。

ImageKit7
Copyright © 2005 Newtone Corp.

メモ

EZ-Converter 1.1が作成するプレゼンテーションデータは、画像ファイル(.jpgファイル)とプレゼンテーションファイル(.plf)で構成されます。プレゼンテーションファイル(.plf)は、プロジェクターの「ビューアー」でUSBメモリー／メモリーカード上の画像ファイルを投映する際の再生設定が記録されたファイルです。プレゼンテーションファイルの設定を使った投映については、「プレゼンテーションリストを使う（EZ-Converter 1.1で作成したプレゼンテーションの実行）」(32ページ)を参照してください。

プレゼンテーションデータを作成するには

1 **スタートメニューから[すべてのプログラム] - [CASIO] - [EZ-Converter]を選択し、EZ-Converter 1.1を起動する。**

- EZ-Converter 1.1ウィンドウが表示されます。

2 **[ツール] - [オプション]を選ぶ。**

- 「オプション」ダイアログが表示されます。

3 **プレゼンテーションデータの保存時に適用される、画像ファイルのサイズと画質を設定する。**

- サイズを指定するには、画像サイズ欄の▼をクリックし、表示されるドロップダウンリストから希望する画像ファイルのサイズを選択します。
- 画質を指定するには、「標準」または「高画質」のどちらかのボタンをクリックします。

4 **[OK]ボタンをクリックして、「オプション」ダイアログを閉じる。**

5 **プレゼンテーションデータに登録したい画像ファイル(*.jpg、*.jpeg、*.bmp)をWindowsのエクスプローラ上で選択し、EZ-Converter 1.1ウィンドウにドラッグ&ドロップする。**

- ドラッグ&ドロップした画像ファイルがプレゼンテーションデータに登録され、EZ-Converter 1.1ウィンドウに縮小表示されます。

6 **登録したいすべての画像ファイルについて、手順5の操作を繰り返す。**

- 複数のファイルを一度に選択してドラッグ&ドロップしても構いません。
- 登録可能な画像ファイル数は、最大500までです。

7 **必要に応じて、画像の順番の入れ替えや削除、再生設定を行う。**

- 画像の順番の入れ替えや削除の操作については、EZ-Converter 1.1のヘルプを参照してください。
- 再生設定の操作については、「プレゼンテーションデータの再生設定を行うには」(19ページ)を参照してください。

8 **プレゼンテーションデータを保存するには、[保存]ボタンをクリックするか、[ファイル] - [プレゼンテーションファイルを保存]を選ぶ。**

- 「保存名」ダイアログが表示されます。

9 **希望するファイル名を入力し、[OK]ボタンをクリックする。**

- 保存先を指定するダイアログが表示されます。

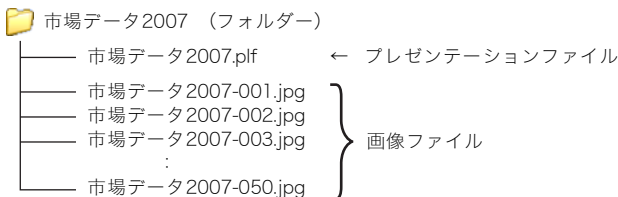
10 **保存先を指定し、[OK]ボタンをクリックする。**

- 指定した保存先に、手順9で入力したファイル名と同名のフォルダーが作成され、そのフォルダー内にプレゼンテーションデータ一式が保存されます。

メモ

手順9で入力したファイル名に応じて、次のようなフォルダーと画像ファイル、プレゼンテーションファイルが作成されます。

例:ファイル名として「市場データ2007」を入力した場合(登録画像ファイル数:50)

PowerPointファイルをプレゼンテーションデータに変換するには

ご注意

この操作を実行するには、お使いのパソコンにPowerPoint 2000、2002、2003、または2007のいずれかがインストールされていることが必要です。

1 **「プレゼンテーションデータを作成するには」(17ページ)の手順1～4の操作を行う。**

2 **ボタンをクリックするか、[ファイル] - [PowerPointファイルの変換]を選ぶ。**

- 「PowerPointファイルを選択」ダイアログが表示されます。

3 **変換したいPowerPointファイルを選択し、[開く]ボタンをクリックする。**

- 「PowerPointファイルを変換中」ダイアログが表示されます。
- 変換が完了すると、EZ-Converter 1.1ウィンドウに変換後の画像ファイルが縮小表示されます。

4 **「プレゼンテーションデータを作成するには」(17ページ)の手順7以降の操作を行う。**

メモ

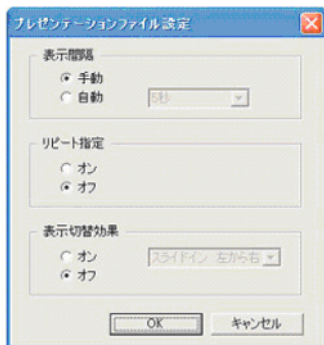
手順2、3の操作の代わりに、変換したいPowerPointファイル1つを、EZ-Converter 1.1ウィンドウ内にドラッグ＆ドロップする操作も可能です。

プレゼンテーションデータの再生設定を行うには

1 **EZ-Converter 1.1ウィンドウに、再生設定を行いたいプレゼンテーションデータを表示する。**

- 「プレゼンテーションデータを作成するには」(17ページ)または「プレゼンテーションファイルを開くには」(20ページ)を参照してください。

2 **ボタンをクリックするか、[ツール] - [プレゼンテーションファイル設定]を選ぶ。**

- 「プレゼンテーションファイル設定」ダイアログが表示されます。

3 希望する設定を行う。

ページ送り方法を設定するには:

「表示間隔」から「手動」または「自動」をクリックして選びます。「自動」を選んだ場合は、「自動」ボタン右側のドロップダウンリストを使って表示間隔を指定できます。

繰り返し再生するか、しないかを設定するには:

「リピート設定」から「オン」または「オフ」をクリックして選びます。

画像ファイルを切り替える際の視覚効果を設定するには:

「表示切替効果」から「オン」を選び、「オン」ボタン右側のドロップダウンリストを使って希望する視覚効果を選択します。視覚効果を加えたくない場合は、「オフ」を選んでください。

4 すべての設定が済んだら[OK]ボタンをクリックする。

メモ

プロジェクターのビューアー機能を使ってプレゼンテーションを実行する際に、プロジェクター側で再生設定を行うこともできます。詳しくは「プレゼンテーションデータのうち画像ファイルだけを保存するには」(22ページ)および「ビューアー設定メニューを使う」(38ページ)を参照してください。

プレゼンテーションファイルを開くには

1 ボタンをクリックするか[ファイル] - [プレゼンテーションファイルを開く]を選ぶ。

- 「開く」ダイアログが表示されます。

2 開きたいプレゼンテーションファイル(.plf)を選択し、[開く]をクリックする。

- 選択したプレゼンテーションファイルが開き、プレゼンテーションファイルにリンクしている画像ファイルがEZ-Converter 1.1ウィンドウに表示されます。

プレゼンテーションデータ内の全画像を黒板への投映に適した画像に変換するには

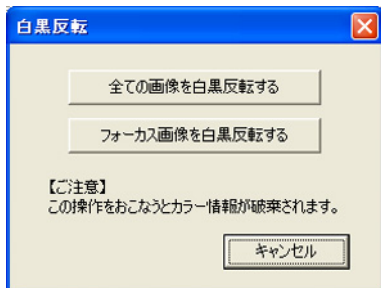
通常のカラー画像や書類を撮影した画像などをモノクロのネガ画像(白黒反転した画像)に変換すると、黒板に投映したときに見やすくなります。この画像変換を、EZ-Converter 1.1ウィンドウに現在表示中の画像ファイルに対して一括して実行することができます。

ご注意

いったんモノクロネガ画像に変換した画像は、カラー画像に戻すことはできません。(変換した直後に限り、[編集] - [元に戻す]の操作によって元に戻すことは可能です。)

1 **EZ-Converter 1.1ウィンドウに、変換対象のプレゼンテーションデータを開いておく。**

2 **ボタンをクリックするか、[ツール] - [白黒反転]を選ぶ。**

- 次のダイアログが表示されます

3 **[全ての画像を白黒反転する]ボタンをクリックする。**

- プレゼンテーションデータに含まれるすべての画像ファイルが、モノクロネガの画像に変換されます。

メモ

選択画像だけをモノクロネガの画像に変換したい場合は、手順2で[フォーカス画像を白黒反転する]ボタンをクリックしてください。

編集中のプレゼンテーションデータを上書き保存するには

ボタンをクリックするか、[ファイル] - [プレゼンテーションファイルを上書き保存]を選びます。編集中のプレゼンテーションデータが上書き保存されます。

編集中のプレゼンテーションデータを別名で保存するには

1 **[保存]ボタンをクリックするか、[ファイル] - [プレゼンテーションファイルを保存]を選ぶ。**

- 「保存名」ダイアログが表示されます。

2 **希望するファイル名を入力し、[OK]ボタンをクリックする。**

- 保存先を指定するダイアログが表示されます。

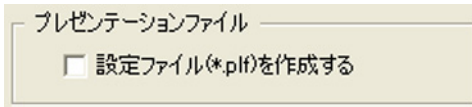
3 **保存先を指定し、[OK]ボタンをクリックする。**

プレゼンテーションデータのうち画像ファイルだけを保存するには

プロジェクターのビューアー機能を使ってプレゼンテーションを実行する際に、プロジェクター側の再生設定を使いたい場合は、次の手順で画像ファイルだけを保存します。

1 **[ツール] - [オプション]を選んで、「オプション」ダイアログを表示する。**

2 **「設定ファイル(*.plf)を作成する」のチェックを外す。**

プレゼンテーションファイル
設定ファイル(*.plf)を作成する

3 **[OK]ボタンをクリックしてダイアログを閉じる。**

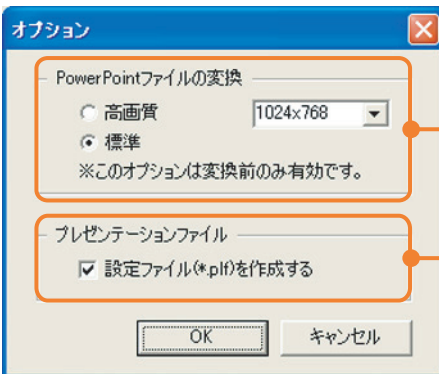
4 **「編集中のプレゼンテーションデータを上書き保存するには」(21ページ)または「編集中のプレゼンテーションデータを別名で保存するには」(21ページ)の操作を行う。**

- 保存先として指定したフォルダーに画像ファイルだけが保存され、プレゼンテーションファイルは作成されません。

メモ

プレゼンテーションファイルを作成する設定に戻したい場合は、「オプション」ダイアログを表示して、「設定ファイル(*.plf)を作成する」にチェックを付け直してください。

オプション設定について

[ツール] - [オプション]を選ぶと表示される「オプション」ダイアログを使うと、EZ-Converter 1.1のいくつかの動作を変更することができます。ダイアログに含まれる各設定項目については、それぞれ下記を参照してください。

EZ-Converter 1.1のメニュー／ボタン一覧

EZ-Converter 1.1のメニューコマンドと、EZ-Converter 1.1ウィンドウ上のボタンの機能の概略です。

これを実行するには：	このメニューを選ぶか：	このボタンをクリックする：
PowerPointファイルをプレゼンテーションデータに変換してEZ-Converter 1.1ウィンドウに表示する	[ファイル] - [PowerPointファイルの変換]	
EZ-Converter 1.1ウィンドウに表示中のプレゼンテーションデータをクリアする	[ファイル] - [プレゼンテーションファイルのクリア]	
保存済みのプレゼンテーションファイル(.plf)を開いてEZ-Converter 1.1ウィンドウに表示する	[ファイル] - [プレゼンテーションファイルを開く]	
EZ-Converter 1.1ウィンドウに表示中のプレゼンテーションデータを上書き保存する	[ファイル] - [プレゼンテーションファイルを上書き保存]	
EZ-Converter 1.1ウィンドウに表示中のプレゼンテーションデータを新規保存する	[ファイル] - [プレゼンテーションファイルを保存]	保存
EZ-Converter 1.1ウィンドウに表示中のプレゼンテーションデータに名前を付けて保存する	[ファイル] - [プレゼンテーションファイルを保存]	保存
EZ-Converter 1.1を終了する	[ファイル] - [終了]	–
EZ-Converter 1.1ウィンドウで最後に行った編集操作を取り消す	[編集] - [元に戻す]	–
EZ-Converter 1.1ウィンドウに表示中のプレゼンテーションデータに画像ファイルを追加する	[編集] - [プレゼンテーションファイルに画像を追加]	
EZ-Converter 1.1ウィンドウに表示中のプレゼンテーションデータから特定の画像ファイルを削除する	[編集] - [プレゼンテーションファイルから画像を削除]	
EZ-Converter 1.1ウィンドウに表示中のプレゼンテーションデータ上の画像ファイルを1つ前に移動する	[編集] - [画像を一つ前に移動]	
EZ-Converter 1.1ウィンドウに表示中のプレゼンテーションデータ上の画像ファイルを1つ後ろに移動する	[編集] - [画像を一つ後ろに移動]	
EZ-Converter 1.1ウィンドウに表示中のプレゼンテーションデータの再生設定を行う	[ツール] - [プレゼンテーションファイル設定]	
EZ-Converter 1.1ウィンドウに表示中のプレゼンテーションデータ上のすべての画像ファイル(または選択した画像ファイル)を、モノクロのネガ画像に変換する	[ツール] - [白黒反転]	
EZ-Converter 1.1のオプション設定を行う	[ツール] - [オプション]	–
EZ-Converter 1.1のヘルプを開く	[ヘルプ] - [ヘルプを開く]	–
EZ-Converter 1.1のバージョン情報ダイアログを開く	[ヘルプ] - [バージョン情報]	–

プレゼンテーションを実行する(ビューアー機能を使う)

「ビューアー」は、本機のUSB端子経由で本機に認識されたメモリーデバイス(USBメモリーや、USBカードリーダーに挿入された各種メモリーカードなど)に保存されている画像ファイルや動画ファイルを再生するための、本機の内蔵アプリケーションです。

対応USBメモリーを本機のUSB端子に接続するか、本機のUSB端子に接続されたUSBカードリーダーにメモリーカードを挿入すると、ビューアーは自動的に起動します。

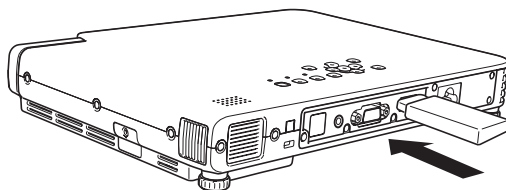
メモ

- ここで説明する操作は、すべて本機のリモコンキー(または本体のキー)を使って行います。
- 対応USBメモリーについては、「本機と接続が可能なUSBメモリーについて」(12ページ)を参照してください。

本機にUSBメモリーを接続する

1 **本機の電源を入れる。**

- 本機のPOWER/STANDBYインジケーターが緑色に点灯するまでお待ちください。

2 **本機のUSB端子に、ビューアー機能を使って投映したいデータの入ったUSBメモリーを下図のように差し込む。**

- 本機がUSBメモリーを認識すると自動的にビューアーが起動し、USBメモリー内のファイル一覧(27ページ)またはドライブ一覧(26ページ)が表示されます。

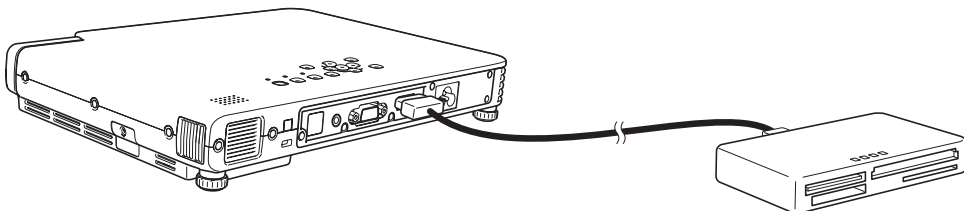
メモ

- 本機の「プラグアンドプレイ」の設定が「オフ」の場合は、本機がUSBメモリーを認識しても、ビューアーは自動的には起動しません。この場合は、[INPUT]キーを押して、入力ソースの切り替えを行ってください。プラグアンドプレイの設定については、取扱説明書(応用編)の「設定メニュー項目の内容詳細」を参照してください。
- ファイル一覧には、本機が認識することができるファイル(拡張子がjpg/jpeg/jpe/bmp/avi/mp4のファイル)以外は表示されません。また、ファイル一覧に表示されているファイルでも、本機で再生することができない場合があります。
- ファイル一覧には、フォルダー、動画ファイル、画像ファイルの順に内容が一覧表示されます。動画ファイルの再生操作については、「ビューアーを使って動画を再生する」(36ページ)を参照してください。

本機にUSBカードリーダーを接続する

1 **本機の電源を入れる。**

- 本機のPOWER/STANDBYインジケーターが緑色に点灯するまでお待ちください。

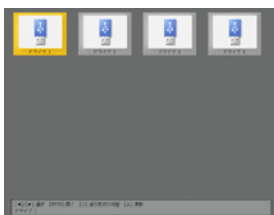
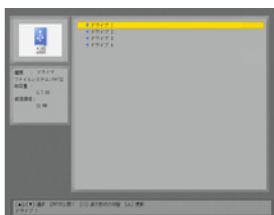
2 **本機のUSB端子に、USBカードリーダーを接続する。**

3 **USBカードリーダーのカードスロットに、ビューアー機能を使って投映したいデータの入ったメモリーカードを挿入する。**

- USBカードリーダーへのメモリーカードの挿入方法については、USBカードリーダーに付属の取扱説明書をご覧ください。
- 挿入されたメモリーカードを本機が認識すると自動的にビューアーが起動し、メモリーカード内のファイル一覧（27ページ）またはドライブ一覧（26ページ）が表示されます。

メモ

- 本機の「プラグアンドプレイ」の設定が「オフ」の場合は、本機がメモリーカードを認識しても、ビューアーは自動的には起動しません。この場合は、[INPUT]キーを押して、入力ソースの切り替えを行ってください。プラグアンドプレイの設定については、取扱説明書（応用編）の「設定メニュー項目の内容詳細」を参照してください。
- ファイル一覧には、本機が認識することができるファイル（拡張子がjpg/jpeg/jpe/bmp/avi/mp4のファイル）以外は表示されません。また、ファイル一覧に表示されているファイルでも、本機で再生することができない場合があります。
- ファイル一覧には、フォルダー、動画ファイル、画像ファイルの順に内容が一覧表示されます。動画ファイルの再生操作については、「ビューアーを使って動画を再生する」（36ページ）を参照してください。

ドライブ一覧の各種操作

ビューアーの起動時に複数のドライブが認識されると、最初にドライブ一覧が表示されます。ドライブ一覧には「アイコン表示」と「ツリー表示」の2つの表示形式があります。

アイコン表示

ツリー表示

メモ

メディアの種類(USBメモリーや各種メモリーカード)にかかわらず、認識されたドライブはすべてUSBメモリーのアイコンとして表示されます。

特定のドライブを開いてファイル一覧を表示するには

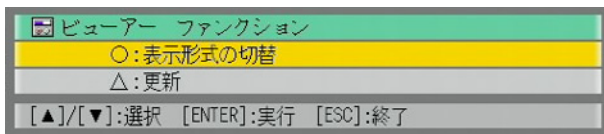
1 **[▼][▲]キーを使って、開きたいドライブにハイライトを移動する。**

2 **[ENTER]キーを押す。**

- 選択したドライブのルートディレクトリのファイル一覧が表示されます。

アイコン表示とツリー表示の間で切り替えるには

1 **[FUNC]キーを押す。**

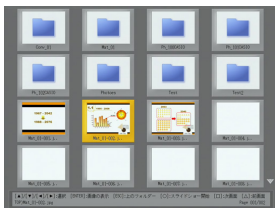
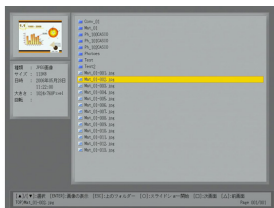
- 次のビューアーファンクションメニューが表示されます。

2 **[▼]キーを使って「表示形式の切替」を反転表示させ、[ENTER]キーを押す。**

- アイコン表示とツリー表示の間で切り替わります。

ドライブ一覧を最新の情報に更新するには

[△]キーを押します。

ファイル一覧の各種操作

ビューアーのファイル一覧には「サムネイル表示」と「ツリー表示」の2つの表示形式があります。

サムネイル表示

ツリー表示

サムネイル表示：

USBメモリー／メモリーカード内の画像ファイル（および動画ファイル）が、サムネイル（縮小画像）として一覧表示されます。フォルダーはアイコンで表現されます。

メモ

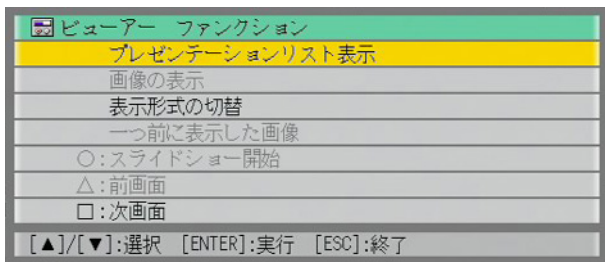
サムネイル表示上に縮小画像が表示されず、「？」というアイコンが表示される画像ファイルは、ビューアーを使って表示することができない画像ファイルです。

ツリー表示：

USBメモリー／メモリーカード内のフォルダー、画像ファイル（および動画ファイル）が、Windowsのエクスプローラーのようなツリー形式で一覧表示されます。

サムネイル表示とツリー表示の間で切り替えるには

1 **[FUNC]キーを押す。**

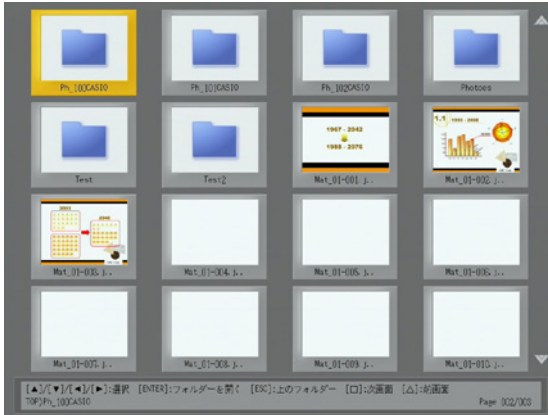
- 次のビューアーファンクションメニューが表示されます。

2 **[▼]キーを使って「表示形式の切替」を反転表示させ、[ENTER]キーを押す。**

- サムネイル表示とツリー表示の間で切り替わります。

ファイル一覧をスクロール(次画面／前画面を表示)するには

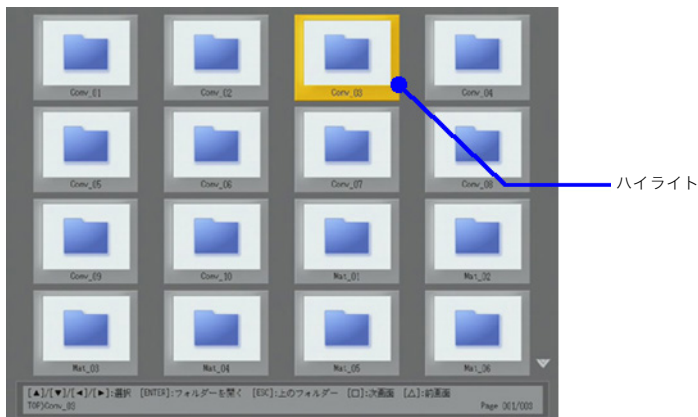
スクロールは1画面単位で行うことができます。次画面を表示するには[□]キーを、前画面を表示するには[△]キーを押します。

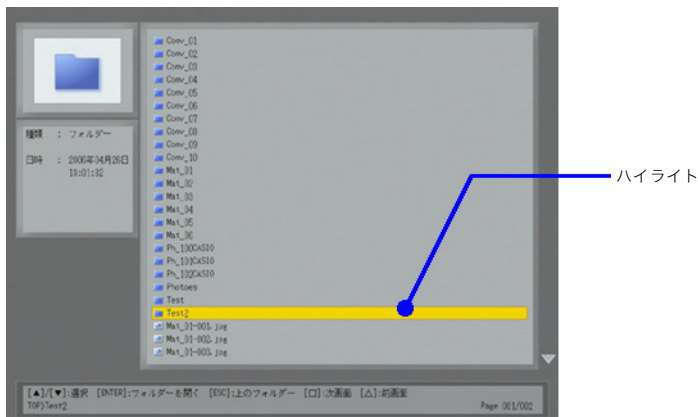
メモ

ファイルやフォルダーがファイル一覧の1画面に収まらない場合は、画面右端にスクロールアイコン(▼/▲)が現れます。スクロールアイコンは、次画面があるときは下方向(▼)、前画面があるときは上方向(▲)が表示されます。[□]キーの操作は▼アイコンが表示されているとき、[△]キーの操作は▲アイコンが表示されているときに有効です。

特定のファイルやフォルダーを選択するには

ファイル一覧では、操作対象のファイルやフォルダーを次の要領で選択することができます。

サムネイル表示の場合：

[▲][▼][◀][▶]キーを使ってハイライトを上下左右に移動します。ハイライトのあるファイルまたはフォルダーが、現在選択されています。

ツリー表示の場合：

[▲][▼]キーを使ってハイライトを上下に移動します。ハイライトのあるファイルまたはフォルダーが、現在選択されています。

フォルダーを開くには

1 **カーソルキーを使って、開きたいフォルダーを選択する。**

2 **[ENTER]キーを押す。**

- 選択したフォルダーが開き、フォルダー内のファイル一覧に切り替わります。
- ツリー表示中は、[ENTER]キーの代わりに[▶]キーを押しても、フォルダーが開きます。

現在開いているフォルダーを閉じて、1つ上の階層に移動するには

サムネイル表示の場合:

[ESC]キーを押します。

ツリー表示の場合:

[ESC]キーまたは[◀]キーを押します。現在ハイライトしているファイル(またはフォルダー)のある階層が閉じて、1つ上の階層のフォルダーにハイライトが移動します。

特定の画像ファイルを全画面表示(投映画面全体に表示)するには

1 カーソルキーを使って、投映画面全体に表示したい画像ファイルを選択する。

2 [ENTER]キーを押す。

- 選択した画像ファイルが投映画面全体に表示されます。

3 ファイル一覧に戻るには、[ESC]キーを押す。

メモ

- 画像ファイルのファイルサイズが大きすぎて全画面表示できない場合は、「表示できない画像ファイルです」というメッセージが表示されます。
- 画像ファイルの全画面表示中に可能な各種操作については、「画像ファイルを投映画面全体に表示しているときの各種操作」(34ページ)を参照してください。

特定の画像ファイルからスライドショーを開始するには

1 カーソルキーを使って、スライドショーを開始したい画像ファイルを選択する。

2 [○]キーを押す。

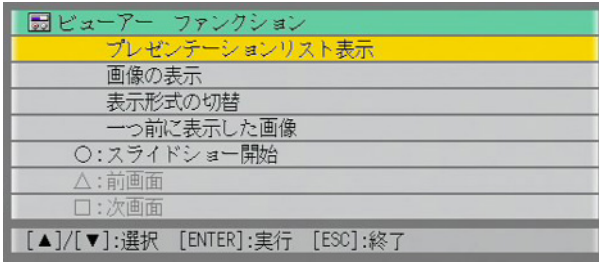
- 選択した画像ファイルが投映画面全体に表示されます。所定の時間(初期設定では5秒)が経過すると、自動的に次の画像ファイルに切り替わります。
- 「スライドショーの表示切替」が「手動」に設定されている場合は、自動的に次の画像ファイルの表示には移行しません。[▶]キーを押すと、次の画像ファイルに切り替わります。

3 スライドショーの途中でファイル一覧に戻るには、[ESC]キーを押す。

メモ

- スライドショーによって表示されるのは、手順1で選択した画像ファイルと同じフォルダー内にある画像ファイル(.jpgまたは.bmpファイル)だけです。その他のファイルはすべて無視されます。
- スライドショーの実行中に可能な各種操作については、「スライドショー実行中の各種操作」(35ページ)を参照してください。
- スライドショー実行時の画像ファイル1つあたりの表示時間や、表示切り替え時の効果といった再生設定を変更することができます。詳しくは「ビューアー設定メニューを使う」(38ページ)を参照してください。
- EZ-Converter 1.1で作成したプレゼンテーションデータによるスライドショーの実行時には、プレゼンテーションデータ上の再生設定が適用されます。詳しくは「プレゼンテーションデータの再生設定を行うには」(19ページ)を参照してください。

1つ前に全画面表示した画像ファイルにハイライトを移動するには

1 **[FUNC]キーを押して、ビューアーファンクションメニューを表示する。**

2 **[▼]キーを使って「一つ前に表示した画像」を反転表示させ、[ENTER]キーを押す。**

- 1つ前に全画面表示した画像ファイルにハイライトが移動します。

メモ

この機能は、例えば次のような場合に使うと便利です。

- 動画ファイルを投映した後に、以前に投映した画像ファイルにハイライトを戻す場合。
- スライドショーを中断し、動画ファイルを投映した後、再び中断したスライドショーの画像ファイルにハイライトを戻す場合。

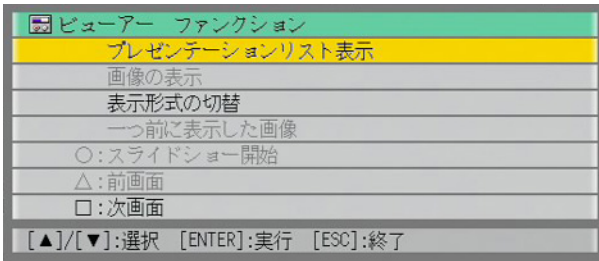
プレゼンテーションリストを使う（EZ-Converter 1.1で作成したプレゼンテーションの実行）

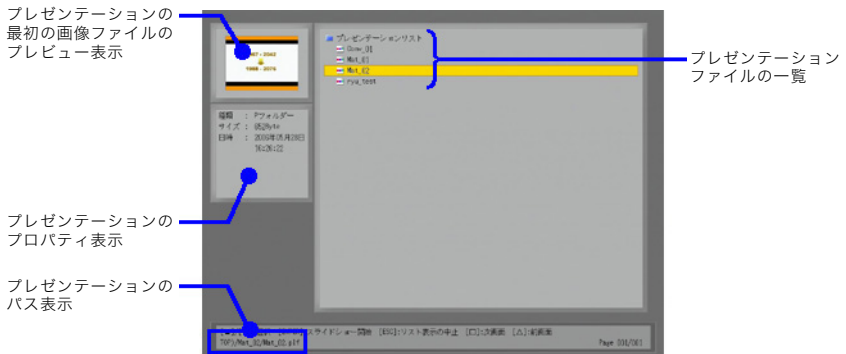
本機に付属しているパソコン用ソフトウェアのEZ-Converter 1.1（17ページ）を使って作成したプレゼンテーションファイル（.plf）を含むフォルダーのことを、「プレゼンテーションフォルダー」と呼びます。

プレゼンテーションフォルダーは、ビューアーのファイル一覧ではその他のフォルダーと同じように表示されるため、どのフォルダーがプレゼンテーションフォルダーか見分けることはできません。このためビューアーには、USBメモリー／メモリーカード内のプレゼンテーションフォルダーだけを検索して表示する「プレゼンテーションリスト」が用意されています。

プレゼンテーションリストを表示するには

1　ファイル一覧の表示中に[FUNC]キーを押す。

● 次のビューアーファンクションメニューが表示されます。

2　「プレゼンテーションリスト表示」が選ばれているのを確認し、[ENTER]キーを押す。

● 次のようなプレゼンテーションリストが表示されます。

プレゼンテーションファイルによるスライドショーを実行するには

1 **[▼]または[▲]キーを使って、実行したいプレゼンテーションファイルにハイライトを移動し、選択する。**

2 **[ENTER]キー(または[○]キー)を押す。**

- 選択したプレゼンテーションファイルによるスライドショーが開始されます。
- 画像ファイルの表示順や、各画像の表示時間、表示切り替え時の効果の有無などは、プレゼンテーションファイルに記述されている設定情報に従います。詳しくは「プレゼンテーションデータの再生設定を行うには」(19ページ)を参照してください。

3 **スライドショーの途中でファイル一覧に戻るには、[ESC]キーを押す。**

メモ

- [ESC]キーを押してスライドショーを途中で終了した場合、スライドショーが自動的に終了した場合のいずれの場合も、ファイル一覧に戻ります。(プレゼンテーションリスト表示には戻りません。)
- スライドショーの実行中に可能な各種操作については、「スライドショー実行中の各種操作」(35ページ)を参照してください。

プレゼンテーションリストからファイル一覧に戻るには

[ESC]キーを押します。

画像ファイルを投映画面全体に表示しているときの各種操作

前後の画像ファイルを表示するには

[▶]キーまたは[◀]キーを押します。

- [▶]キーを押すと、次の画像ファイルが投映画面全体に表示されます。
- [◀]キーを押すと、1つ前の画像ファイルが投映画面全体に表示されます。

メモ

（表示できない画像ファイルについて）

[▶]キーまたは[◀]キーを押して表示しようとした画像ファイルのファイルサイズが大きすぎて投映画面全体に表示することができない場合は、「表示できない画像ファイルです」というメッセージが表示されます。

画像を回転表示するには

[▲]キーまたは[▼]キーを押します。

- [▲]キーを押すと、画像が右方向に90度回転して表示されます。
- [▼]キーを押すと、画像が左方向に90度回転して表示されます。

メモ

[FUNC]キーを押すと表示されるビューアーファンクションメニューで「画像を右90度回転」または「画像を左90度回転」を反転表示させ、[ENTER]キーを押して、画像を回転させることも可能です。

投映画面全体に表示中の画像ファイルからスライドショーを開始するには

[○]キーを押します。

メモ

[FUNC]キーを押すと表示されるビューアーファンクションメニューで「スライドショー開始」を反転表示させ、[ENTER]キーを押して、スライドショーを開始することも可能です。

投映画面全体に画像を表示しているときにファイル一覧に戻るには

[ESC]キーを押します。

スライドショー実行中の各種操作

(スライドショーの表示切替が自動に設定されているときに)スライドショーを一時停止するには

[□]キーを押します。

(スライドショーの表示切替が自動に設定されているときに)一時停止したスライドショーを再開するには

[○]キーを押します。

スライドショー実行中に前後の画像ファイルを表示するには

カーソルキーを押します。

- [▶]キーを押すと、次の画像ファイルが投映画面全体に表示されます。
- [◀]キーを押すと、1つ前の画像ファイルが投映画面全体に表示されます。

メモ

スライドショーの一時停止中、または「スライドショーの表示切替」が「手動」に設定されている場合を除き、カーソルキーを押して前後の画像ファイルを表示した後で所定の時間が経過すると、自動的に表示中の画像ファイルの次の画像ファイルに表示が切り替わります。

スライドショーを中止してファイル一覧に戻るには

[ESC]キーを押します。

スライドショーの開始エラーについて

「特定の画像ファイルからスライドショーを開始するには」(30ページ)、「プレゼンテーションファイルによるスライドショーを実行するには」(33ページ)、または「投映画面全体に表示中の画像ファイルからスライドショーを開始するには」(34ページ)の操作を実行したときに、次のエラーメッセージが表示されてスライドショーが開始できない場合があります。

スライドショーの設定ファイルに異常があります。 スライドショーを開始することができません。

このような場合は、EZ-Converter 1.1で再度プレゼンテーションファイルを作成してUSBメモリー／メモリーカードに保存し直し、保存し直したプレゼンテーションファイルを使ってスライドショーを実行してください。

ビューアーを使って動画を再生する

ここでは、ビューアーを使って動画ファイルを再生する各種操作について説明します。

メモ

再生可能な動画ファイルの形式については、「再生が可能なデータの種類について」(12ページ)を参照してください。

動画ファイルを再生するには

1 ファイル一覧で、再生したい動画ファイルを選択する。

- ファイル一覧で特定のファイルを選択する操作については、「特定のファイルやフォルダーを選択するには」(29ページ)を参照してください。

2 [ENTER]キーを押す。

- 選択した動画ファイルの再生が開始されます。
- 本機が対応している形式の音声付き動画の場合は、映像とともに音声も再生されます。

3 再生を途中で中止してファイル一覧に戻るには、[ESC]キーを押す。

ご注意

- 本機で再生することができないタイプの動画ファイルを選択して[ENTER]キーを押すと、「再生できない動画ファイルです。」というエラーメッセージが表示されます。
- 外部スピーカーに音声出力するには、設定メニューの「機器設定2」で「USB音声出力」を「ライン」に設定した上で、本機のAV端子と外部スピーカーを市販のオーディオケーブルで接続してください。
- AV端子にはイヤフォンやヘッドフォンを接続しないでください。

動画ファイルの再生中の各種操作について

動画ファイルの再生中は、動画の一時停止、早送り、早戻し、再生の中止、再生時間の表示／非表示切り替えを行うことができます。

これを実行するには：	この操作を行う：
再生を一時停止する	[ENTER]キーを押す (一時停止状態から動画の再生を再開するには、再度[ENTER]キーを押します。)
早戻しする	[◀]キーを押す
早送りする	[▶]キーを押す
再生を中止する	[ESC]キーを押す
再生中の動画ファイルの先頭へ移動して一時停止する	1. [FUNC]キーを押してビューアーファンクションメニューを表示する。 ● このとき、「先頭へ移動」が選択されています。 2. [ENTER]キーを押す。
再生中の動画ファイル末尾へ移動して一時停止する	1. [FUNC]キーを押してビューアーファンクションメニューを表示する。 2. [▼]キーを使って「末尾へ移動」を反転表示させ、[ENTER]キーを押す。
(ファイル一覧での表示順が現在再生中の動画ファイルの)次の動画ファイルの先頭へ移動して再生する	1. [FUNC]キーを押してビューアーファンクションメニューを表示する。 2. [▼]キーを使って「次の動画」を反転表示させ、[ENTER]キーを押す。
(ファイル一覧での表示順が現在再生中の動画ファイルの)1つ前の動画ファイルの先頭へ移動して再生する	1. [FUNC]キーを押してビューアーファンクションメニューを表示する。 2. [▼]キーを使って「前の動画」を反転表示させ、[ENTER]キーを押す。
再生時間の表示／非表示を切り替える	[○]キーを押すか、次の操作を行う 1. [FUNC]キーを押してビューアーファンクションメニューを表示する。 2. [▼]キーを使って「時間表示のオン・オフ」を反転表示させ、[ENTER]キーを押す。

メモ

動画ファイルの再生中に[FUNC]キーを押してビューアーファンクションメニューを表示すると、動画の再生は一時停止します。[ESC]キーを押してビューアーファンクションメニューを閉じると、動画の再生が一時停止位置から再開されます。

ビューアー設定メニューを使う

ビューアー 設定		
画像の拡大・縮小	◉拡大・縮小する	○拡大しない
表示順の指定	ファイル名(昇順)	変更 [ENTER]
起動時のモード	◉縮小	○ツリー
スライドショーの表示切替	◉手動	○自動
スライドショーの表示間隔	5秒	変更 [ENTER]
スライドショーの切替効果	スライドイン 左から右	変更 [ENTER]
スライドショーのリピート指定	○オン	◉オフ
動画表示	拡大する	変更 [ENTER]
ビューアー設定の初期化		実行 [ENTER]
[▲]/[▼]:選択 [◄]/[►]:変更 [ESC]:終了		

メモ

- EZ-Converter 1.1で作成したプレゼンテーションファイルによるスライドショーを実行すると、ビューアー設定メニューの中のスライドショーに関連する各設定(スライドショーの表示切替、スライドショーの表示間隔、スライドショーの切替効果、スライドショーのリピート指定)が、実行したプレゼンテーションファイルに保存されている再生設定(19ページ参照)に従って自動的に切り替わります。
- EZ-Converter 1.1で保存した画像データによるスライドショーを、ビューアー設定メニュー内の設定に従って実行したい場合は、EZ-Converter 1.1で設定ファイル(*.plf)を作成せずに画像ファイルだけを保存します。詳しくは「プレゼンテーションデータのうち画像ファイルだけを保存するには」(22ページ)を参照してください。

ビューアー設定メニューを使って設定を行うには

1 **[MENU]キーを押して設定メニューを表示する。**

2 **[▼]キーを押して「USB」を反転表示させ、[ENTER]キーを押す。**

3 **[▼]キーを1回押して「設定」を反転表示させ、[ENTER]キーを押す。**

- ビューアー設定メニューが表示されます。

4 **[▼]または[▲]キーを押して、設定を変更したい項目を反転表示させる。**

5 **設定を変更する。**

● 反転表示させた行の表示内容に応じて、次の操作を行います。

行の右端に[ENTER]と表示されている場合:

a. [ENTER]キーを押す。

b. 表示される選択肢一覧で[▼]または[▲]キーを押し、希望する選択肢を反転表示させる。
(例)手順2で「表示順の指定」を選んだ場合の選択肢一覧

c. [ENTER]キーを押す。

d. ビューアー設定メニューに戻るには[ESC]キーを押す。

行の右端に[ENTER]と表示されていない場合:
[◀]または[▶]キーを押して、希望する選択肢に●印が付いた状態にします。

6 **設定を変更したいすべての項目について、手順2と3の操作を行う。**

7 **ビューアー設定メニューの操作を終了するには、[MENU]キーを押す。**

ビューアー設定メニューに含まれる全項目の設定を初期化する

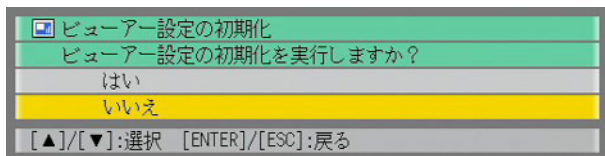
1 **[MENU]キーを押して設定メニューを表示する。**

2 **[▼]キーを押して「USB」を反転表示させ、[ENTER]キーを押す。**

3 **[▼]キーを1回押して「設定」を反転表示させ、[ENTER]キーを押す。**

● ビューアー設定メニューが表示されます。

4 **[▼]キーを押して「ビューアー設定の初期化」を反転表示させ、[ENTER]キーを押す。**

● 次のような確認ダイアログが表示されます。

5 **[▲]キーを押して「はい」を選ぶ。**

6 **初期化を実行するには[ENTER]キーを押す。**

● ビューアー設定メニューに含まれる全項目の設定が初期化されます。

● 初期化の実行をやめるには、[ENTER]キーを押さずに[ESC]キーを押します。

7 **ビューアー設定メニューの操作を終了するには、[ESC]キーを押す。**

ビューアー設定メニュー項目の内容詳細

ビューアー設定メニューに含まれる各項目の内容を説明します。

設定項目名	解説
画像の拡大･縮小	画像ファイルのサイズがXGA以外のときに、投映画面に合わせて画像を拡大または縮小して表示するか、しないかを設定します。 **拡大･縮小する：** 画像ファイルのサイズがXGA以外のときに、投映画面に合わせて画像を拡大または縮小して表示します。 **拡大しない：** 画像ファイルを元のサイズのまま表示します。
表示順の指定	ファイル一覧またはプレゼンテーションリストに表示するファイルの表示順を設定します。 **ファイル名（昇順）：** ファイル名の昇順に表示します。 **ファイル名（降順）：** ファイル名の降順に表示します。 **時刻順（新）：** ファイルの更新時刻が新しいものから順に表示します。 **時刻順（古）：** ファイルの更新時刻が古いものから順に表示します。
起動時のモード	ビューアーの起動時に、ファイル一覧を「サムネイル表示」にするか、「ツリー表示」にするかを設定します。表示形式については「ファイル一覧の各種操作」（27ページ）を参照してください。 **縮小：** ビューアー起動時のファイル一覧を「サムネイル表示」にします。 **ツリー：** ビューアー起動時のファイル一覧を「ツリー表示」にします。
スライドショーの表示切替	スライドショー実行時のページ送りを手動で行うか、自動で行うかを設定します。 **手動：** スライドショー実行時のページ送りを手動で行います。 **自動：** スライドショー実行時のページ送りを自動で行います。
スライドショーの表示間隔	スライドショー実行時のページ送りを自動で行う場合の表示間隔を、次の中から選択します。 **5秒／10秒／30秒／1分／5分**
スライドショーの切替効果	スライドショー実行時に画像ファイルを切り替えるときの視覚効果を、次の中から選択します。 **オフ／スライドイン　左から右／スライドイン　右から左／スライドイン　上から下／スライドイン　下から上／ワイプ　左から右／ワイプ　右から左／ワイプ　上から下／ワイプ　下から上／ディゾルブ**

設定項目名	解説
スライドショーのリピート指定	スライドショーを繰り返し実行するかどうかを設定します。また、動画ファイルの再生時に、繰り返し再生を行うかどうかも、同時に設定します。 **オン:** スライドショーを繰り返し実行します。また、動画ファイルを繰り返し再生します。 **オフ:** スライドショーを1回で終了します。また、動画ファイルの再生を1回で終了します。
動画表示	動画再生時の表示サイズを設定します。 **拡大する:** 投映画面に合わせて画像を拡大して動画を再生します。 **拡大しない:** 動画ファイルを元のサイズのまま再生します。
ビューアー設定の初期化	ビューアー設定メニュー内のすべての項目の設定を、初期状態に戻します。本項目の操作手順については、「ビューアー設定メニューに含まれる全項目の設定を初期化する」(39ページ)を参照してください。

ビューアー機能のエラーメッセージ一覧

メッセージ	原因	対応
スライドショーの設定ファイルに異常があります。 スライドショーを開始することができません。	EZ-Converter 1.1で作成したプレゼンテーションファイルの一部に異常がある。	EZ-Converter 1.1を使って、プレゼンテーションデーター式(プレゼンテーションファイルおよび画像ファイル)を再度USBメモリー／メモリーカードに保存する。
表示するファイルがありません。	ビューアーで内容を表示しようとしたフォルダーの中に、表示可能なフォルダー、画像ファイル、動画ファイルが無い。	● EZ-Converter 1.1を使って、プレゼンテーションデータをUSBメモリー／メモリーカードに保存する。 ● パソコンからUSBメモリー／メモリーカード上のフォルダーに画像ファイルまたは動画ファイルをコピーする。
表示できない画像ファイルです。	画像ファイルの容量が大きくて表示することができない。または、画像ファイルに誤りがあり、表示することができない。	6MByte以下にリサイズした画像ファイルを、USBメモリー／メモリーカードに保存する。 **ご注意** プログレッシブ形式のJPEG画像はサポートしていません。
ファイルが見つかりません。	プレゼンテーションデータの一部として保存した画像ファイルが見つからない。	EZ-Converter 1.1を使って、プレゼンテーションデーター式(プレゼンテーションファイルおよび画像ファイル)を再度USBメモリー／メモリーカードに保存する。
再生できない動画ファイルです。	ビューアーで再生できない形式の動画ファイルを再生しようとした。または、動画ファイルに誤りがある。	● 再生できなかった動画ファイルを、ビューアーで再生可能な形式に変換してから、USBメモリー／メモリーカードにコピーする。 ● ビューアーで再生可能な形式の別の動画ファイルを、USBメモリー／メモリーカードにコピーする。

ビューアー機能のトラブルシューティング

ファイル一覧にフォルダーやファイルが表示されない

- 1つのフォルダー内に1000個以上のフォルダーやファイルがあると、すべてのフォルダーやファイルは表示されません。フォルダーやファイルの数を減らしてください。
- ビューアー機能を使って表示できるUSBメモリー／メモリーカード内のフォルダーの階層は、最大で10階層目までです。10階層目を越えるフォルダーの内容は、表示されません。

画像を再生するのに時間がかかる、画像をスムーズに再生したい

BMP画像やデジタルカメラで撮影した容量の大きい画像ファイルをビューアー機能のファイル一覧から表示させた場合、表示までに時間がかかります。このような場合は、EZ-Converter 1.1を使ってプレゼンテーションデータに変換します。画像は、再生がスムーズなJPEG画像に変換されます。

スライドショーを実行すると意図しない動作をする

- EZ-Converter 1.1を使ってプレゼンテーションデータを作成し、保存してください。
- プレゼンテーションデータでないフォルダーから画像ファイルをハイライトさせてスライドショーを開始する場合は、事前にビューアー設定メニュー内のスライドショーに関連する各設定（スライドショーの表示切替、スライドショーの表示間隔、スライドショーの切替効果、スライドショーのリピート指定）を行ってください。

ここでは本機とマルチプロジェクションカメラ（YC-400/YC-430）を接続して、マルチプロジェクションカメラの書画台に置いた書類を本機から投映する操作について説明します。投映には、本機の内蔵アプリケーションの「YCカメラ」を使います。

重要

YC-400を本機に接続するには、YC-400のカメラのファームウェアのバージョンが、ver.1.1以上である必要があります。カメラのファームウェアのバージョンの確認方法およびバージョンアップの方法については、弊社のホームページ（http://casio.jp/support/projector/soft/camera2.html）をご覧ください。

YCカメラの機能概要と基本操作

「YCカメラ」は本機に接続されたマルチプロジェクションカメラ（YC-400/YC-430）を本機からコントロールするための、本機の内蔵アプリケーションです。YCカメラを使うことで、マルチプロジェクションカメラの書画台に載せた書類を、本機から投映することができます。マルチプロジェクションカメラを本機のUSB端子に接続し、マルチプロジェクションカメラの電源を入れると、自動的にYCカメラが起動します。

本機とマルチプロジェクションカメラ（YC-400/YC-430）を接続する

ここでは本機とマルチプロジェクションカメラを接続して、マルチプロジェクションカメラの書画台に載せた書類を本機から投映するまでの、もっとも基本的な操作手順を説明します。

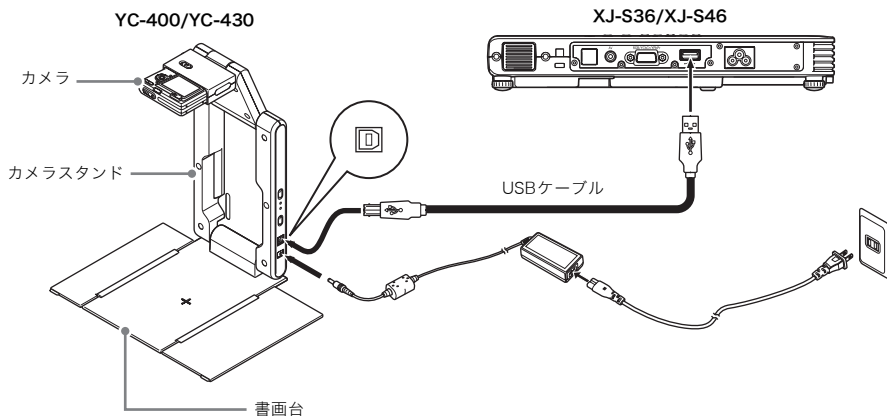
重要

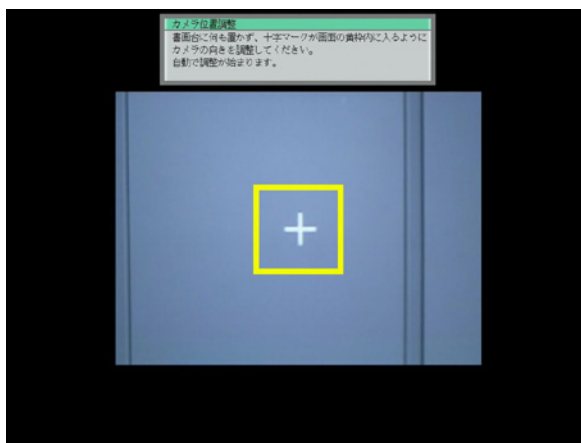
- ここで説明する操作は、本機の「プラグアンドプレイ」の設定が「オン」になっていることが前提です（本機の初期設定では「オン」に設定されています）。もし、この設定を「オフ」に切り替えてある場合は、あらかじめ「オン」に戻してから、下記の操作を行ってください。プラグアンドプレイの設定については、取扱説明書（応用編）の「設定メニュー項目の内容詳細」を参照してください。
- YC-400/YC-430を本機と接続した場合の撮影解像度は、400万画素固定です。撮影解像度を変更することはできません。

本機とマルチプロジェクションカメラを接続して書類の投映を行うには

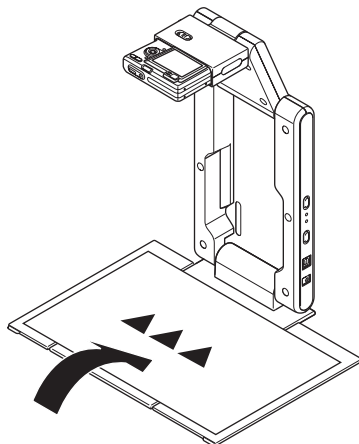
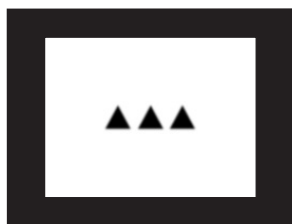
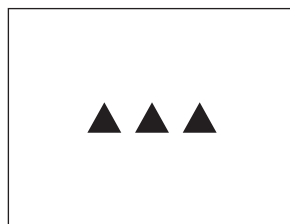
1 **本機の電源を入れる。**

- 本機のPOWER/STANDBYインジケーターが緑色に点灯するまでお待ちください。

2 **マルチプロジェクションカメラと本機を、マルチプロジェクションカメラに付属のUSBケーブルで接続する。**

3 **書画台に何も置いていない状態で、マルチプロジェクションカメラのカメラスタンドの[⏻]（電源）ボタンを押す。**

- マルチプロジェクションカメラの電源が入り、レンズが繰り出します。
- このとき本機がマルチプロジェクションカメラを認識し、自動的にYCカメラが起動します。YCカメラが起動すると、投映画面に書画台の映像と、「カメラ位置調整」ダイアログが表示されます。

- カメラの向きが正しければ、カメラ位置調整が自動的に完了してダイアログが閉じ、モニター表示状態（カメラからの映像がそのまま投映画面に表示される状態）となります。
- カメラの向きが正しくない場合は、カメラの向きを調整するように促すメッセージが表示されますので、メッセージに従ってカメラの向きを調整してください。

4 書画台に、投映したい書類を置く。

- 原稿は、必ず書画台の中央に置き、書画台からはみださないようにしてください。
- 横長の書類の場合、書類の上部がカメラスタンドのアーム側になるように置きます。
- 書類を置いた時点ではモニター表示状態のままなので、やや粗い画像(モニター画像)が表示されています。

- 書画台に置かれた書類が静止したのをカメラが認識すると、自動的にカメラによる撮影が行われ、投映画面の表示がモニター画像から高解像度の「撮影画像」に切り替わります。

5 書画台の書類を、別の書類と差し替える。

- 自動的に差し替えた書類の「撮影画像」の投映に切り替わります。

メモ

手順5の動作は、本機のYCカメラの初期設定時の動作です。YCカメラの「動作設定」を「手動撮影」に切り替えた場合は、差替えた書類の「撮影画像」に自動的には切り替わりません。詳しくは「YCカメラ設定メニュー項目の内容詳細」(53ページ)を参照してください。

YCカメラの各種操作

ここではYCカメラを使った各種の投映操作と、YCカメラの設定操作について説明します。

重要

ここで説明する各種操作は「本機とマルチプロジェクションカメラ（YC-400/YC-430）を接続する」（44ページ）の操作を行い、本機とマルチプロジェクションカメラが正しく接続されており、本機のYCカメラが起動していることが前提となります。

YCカメラを使った各種の投映操作

ここで説明する操作は、[FUNC]キーを押すと表示される「YCカメラファンクションメニュー」を使って行います。

一部の操作は、本機のリモコンの[○]、[△]、および[□]キーを使って行うこともできます。

手動でカメラのシャッターを切るには

1 **[FUNC]キーを押して、YCカメラファンクションメニューを表示する。**

- このとき、「カメラシャッター」が反転表示されています。

2 **カメラのシャッターを切るには、[ENTER]キーを押す。**

- マルチプロジェクションカメラによる撮影が行われ、撮影画像が投映されます。

メモ

モニター画像または撮影画像の表示中は、[FUNC]キーを押さなくても[ENTER]キーを押すだけで、手動でシャッターを切ることができます。

カメラのズームを調節するには

1 **[FUNC]キーを押して、YCカメラファンクションメニューを表示する。**

2 **[▼]キーを使って「カメラズーム/フォーカス」を反転表示させ、[ENTER]キーを押す。**

- 投映画面に「YCカメラ ズーム/フォーカス」ダイアログが表示されます。このとき、「ズーム」が反転表示されています。

3 **[▶]または[◀]キーを使って、カメラのズーム倍率を調節する。**

4 **調節が済んだら、[ESC]キーを押す。**

- 「YCカメラ ズーム/フォーカス」ダイアログが閉じます。

カメラのフォーカスを手動で調整するには

1 **[FUNC]キーを押して、YCカメラファンクションメニューを表示する。**

2 **[▼]キーを使って「カメラズーム/フォーカス」を反転表示させ、[ENTER]キーを押す。**

- 投映画面に「YCカメラ ズーム/フォーカス」ダイアログが表示されます。

3 **[▼]キーを押して「フォーカス」を反転表示させる。**

4 **[▶]または[◀]キーを使って、カメラのフォーカスを調整する。**

5 **調整が済んだら、[ESC]キーを押す。**

- 「YCカメラ ズーム/フォーカス」ダイアログが閉じます。

カメラの位置を調整するには

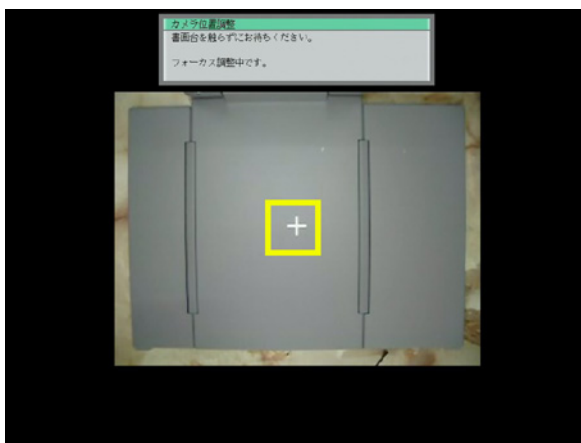
1 **書画台に書類がある場合は取り除く。**

2 **[FUNC]キーを押して、YCカメラファンクションメニューを表示する。**

3 **[▼]キーを使って「カメラ位置調整」を反転表示させ、[ENTER]キーを押す。**

- 「カメラ位置調整」ダイアログが表示されます。

4 **カメラを下に向けて、カメラのレンズが書画台の方向に向くように合わせる。**

- 投映画面に表示されるメッセージに従って、カメラの向きを調整してください。

- カメラの向きが正しければ、カメラ位置調整が完了してダイアログが閉じ、モニター表示状態（カメラからの映像がそのまま投映画面に表示される状態）に移行します。

投映中の撮影画像を回転するには

メモ

この操作は、現在投映中の撮影画像に対してのみ有効です。次にシャッターを切ったときの撮影画像に対しては、適用されません。次にシャッターを切ったときの撮影画像は「YCカメラ設定メニューを使う」（51ページ）の設定情報に従って投映されます。

1 **[FUNC]キーを押して、YCカメラファンクションメニューを表示する。**

2 **[▼]キーを使って「○：回転（右90度方向）」を反転表示させ、[ENTER]キーを押す。**

- 投映画面に表示中の撮影画像が右方向に90度回転表示されます。
- 手順1、2の操作を行う代わりに、[○]キーを押して撮影画像を回転することも可能です。

投映中の撮影画像に対して「白色化」処理を施すには

メモ

- 撮影画像に対して「白色化」処理を実施すると、撮影画像の下地の色（例えばクリーム色の紙に黒の文字が印刷されている書類を撮影した画像の、クリーム色の部分）を白色にして、書類上の文字を読みやすくすることができます。
- この操作は、現在投映中の撮影画像に対してのみ有効です。次にシャッターを切ったときの撮影画像に対しては、適用されません。次にシャッターを切ったときの撮影画像は「YCカメラ設定メニューを使う」（51ページ）の設定情報に従って投映されます。

ご注意

白色化の処理は、正面撮影補正された撮影画像に対してのみ実行することができます。正面撮影補正については、「投映中の撮影画像に対して「正面撮影補正」処理を施すには」（50ページ）のメモを参照してください。

1 **[FUNC]キーを押して、YCカメラファンクションメニューを表示する。**

2 **[▼]キーを使って「△：白色化」を反転表示させ、[ENTER]キーを押す。**

- 投映画面に表示中の撮影画像に対して、白色化の処理が実施されます。
- 手順1、2の操作を行う代わりに、[△]キーを押して撮影画像に対して白色化を施すことも可能です。

投映中の撮影画像に対して「正面撮影補正」処理を施すには

メモ

- 書画台に傾いた状態で置かれた書類をカメラが撮影したときに、撮影された画像を正しい向きに補正して投映するのが「正面撮影補正」処理です。YCカメラの初期設定ではこの「正面撮影補正」が自動的に行われるように設定されていますが、正面撮影補正を行わないように設定してある場合に手動で正面撮影補正を行いたい場合は、下記の操作を行います。
- この操作は、現在投映中の撮影画像に対してのみ有効です。次にシャッターを切ったときの撮影画像に対しては、適用されません。次にシャッターを切ったときの撮影画像は「YCカメラ設定メニューを使う」（51ページ）の設定情報に従って投映されます。

1 **[FUNC]キーを押して、YCカメラファンクションメニューを表示する。**

2 **[▼]キーを使って「□：正面撮影補正」を反転表示させ、[ENTER]キーを押す。**

- 投映画面に表示中の撮影画像に対して、正面撮影補正の処理が実施されます。
- 手順1、2の操作を行う代わりに、[□]キーを押して撮影画像に対して正面撮影補正を施すことも可能です。

YCカメラ設定メニューを使う

YCカメラ設定メニューを使うと、さまざまなYCカメラの動作設定を行うことができます。

YCカメラ設定メニューを使って設定を行うには

1 **[MENU]キーを押して設定メニューを表示する。**

2 **[▼]キーを押して「USB」を反転表示させ、[ENTER]キーを押す。**

3 **[▼]キーを1回押して「設定」を反転表示させ、[ENTER]キーを押す。**

● YCカメラ設定メニューが表示されます。

4 **[▼]または[▲]キーを押して、設定を変更したい項目を反転表示させる。**

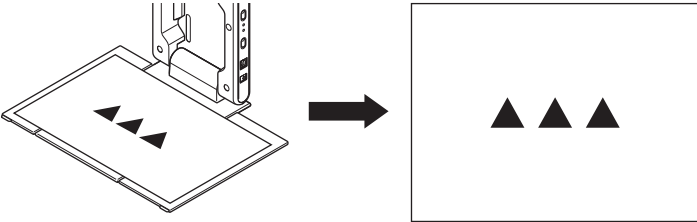
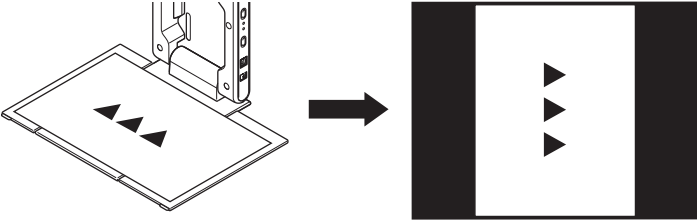
5 **[◀]または[▶]キーを押して、希望する選択肢に●印が付いた状態にする。**

6 **設定を変更したいすべての項目について、手順4と5の操作を行う。**

7 **YCカメラ設定メニューの操作を終了するには、[ESC]キーを押す。**

メモ

「白色化設定」と「正面撮影補正」に対する変更は、設定メニューを閉じた後でマルチプロジェクションカメラが撮影を実行した時点から有効となります。その他の各項目に対する変更は、設定メニューが閉じた時点から有効となります。

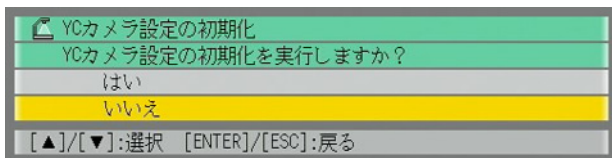
YCカメラ設定メニューに含まれる全項目の設定を初期化するには

1 **[MENU]キーを押して設定メニューを表示する。**

2 **[▼]キーを押して「USB」を反転表示させ、[ENTER]キーを押す。**

3 **[▼]キーを1回押して「設定」を反転表示させ、[ENTER]キーを押す。**

- YCカメラ設定メニューが表示されます。

4 **[▼]キーを押して「YCカメラ設定の初期化」を反転表示させ、[ENTER]キーを押す。**

- 次のような確認ダイアログが表示されます。

5 **[▲]キーを押して「はい」を選ぶ。**

6 **初期化を実行するには[ENTER]キーを押す。**

- YCカメラ設定メニューに含まれる全項目の設定が初期化されます。
- 初期化の実行をやめるには、[ENTER]キーを押さずに[ESC]キーを押します。

7 **YCカメラ設定メニューの操作を終了するには、[ESC]キーを押す。**

YCカメラ設定メニュー項目の内容詳細

YCカメラ設定メニューに含まれる各項目の内容を説明します。表中の「解説」欄でアスタリスク（*）が付いている選択肢は、初期設定を表しています。

設定項目名	解説
動作設定	書画台に置かれた書類の撮影を自動的に行うか、自動的には行わないかを設定します。 **自動撮影*：** 書画台の書類を差し替えるたびに、書画台に載せた書類の投映が自動的に行われます。 **手動撮影：** 書画台に載せた書類の投映を行いたいときに、手動で撮影（シャッター）の操作を行います。
モニター表示方向	モニター表示の向きを切り替えます。 **横置き*：** カメラスタンドの向きを書類の上方向とする横置きの状態で、書画台の書類を投映します。 **縦置き：** カメラのファインダー側を書類の下方向とする縦置きの状態で、書画台の書類を投映します。
白色化設定	撮影画像に対して白色化の処理を行うか、行わないかを設定します。 **しない*：** 白色化の処理を実行しません。 **する：** 白色化の処理を自動的に実行します。 **オート：** 白色化の処理を実行するかしないかを、撮影画像に応じて自動的に判別します。 **ご注意** 正面撮影補正の設定が「しない」になっている場合は、白色化の処理は実行されません。

設定項目名	解説
正面撮影補正	撮影画像に対して正面撮影補正の処理を行うか、行わないかを設定します。 **する*:** 正面撮影補正の処理を行います。 **しない:** 正面撮影補正の処理を行いません。
書画モニター画像投映	書画台から書類を取り除いたときに、投映画面にモニター画像(カメラからのモニター映像)を表示するか、しないかを設定します。 **する*:** モニター画像を表示します。 **しない:** モニター画像を表示しません。
YCカメラ設定の初期化	YCカメラ設定メニュー内のすべての項目の設定を、初期状態に戻します。本項目の操作手順については、「YCカメラ設定メニューに含まれる全項目の設定を初期化するには」(52ページ)を参照してください。

関数電卓の画面を投映する

本機と関数電卓をUSB接続することで、関数電卓の画面をそのまま本機から投映することができます。次の機種の関数電卓が、本機とのUSB接続に対応しています。

● fx-9860Gシリーズ

関数電卓の画面を投映するには

1 関数電卓の通信設定を行う。

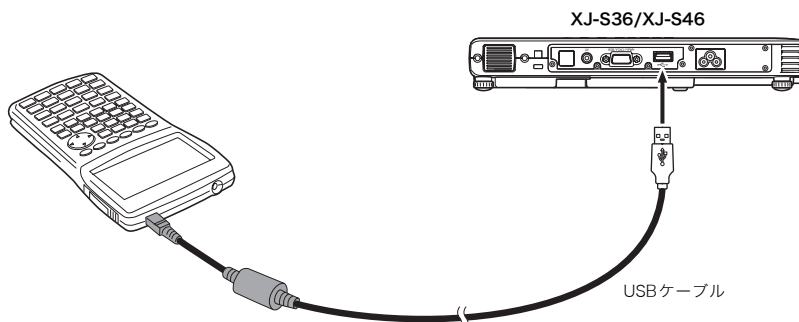
LINKモードに入り、"Wakeup"と"Capture"の各項目をそれぞれ下の画面の通りに設定します。

● 通信設定は、必ず関数電卓と本機を接続する前に行ってください。

● 設定の操作について詳しくは、関数電卓に付属の取扱説明書を参照してください。

2 本機の電源を入れる。

3 関数電卓に付属のUSBケーブルを使って、本機と関数電卓を下図のように接続する。

● 関数電卓の画面が本機から投映されます。

※イラストは fx-9860G の場合の例です

ご注意

● 本機と関数電卓を接続したときに、本機からの投映画面に砂時計が表示されたままになった場合は、関数電卓で何らかの操作を行ってください。砂時計表示が消え、正しく投映されるようになります。

● 本機と関数電卓を接続したときに関数電卓が正常に動作しない場合は、いったん関数電卓からUSBケーブルを引き抜いて、再度差し込み直してください。それでも関数電卓が正常に動作しない場合は、本機と関数電卓からUSBケーブルを取り外し、本機の電源をいったん切ってから入れ直し、再度USBケーブルを接続し直してください。